

社会福祉法人 エンゼル福祉会  
おたけの郷  
2023 年度 事業報告書

**(1) . 育成**

## I 内部研修

2023 年度は、新型コロナウイルスが 5 類となりこれまでの WEB 研修から集合型の研修を多く取り入れる事ができた 1 年だった。また、外部への研修参加も積極的に行い、39 名（14 講座）の職員が参加する事ができた 1 年でもあった。

中途入職者に対する研修に関しては、グループ全体で実施する合同入社時研修（計 5 日間）への参加を原則とし、その後施設内において施設の理念や建物の造りなどを踏まえた新入職員研修を実施してきた。

## ① 各委員会主催研修

原則的には感染予防策を実施しながら集合型の研修を実施。

また 2023 年度からはエンゼル福祉会として統一の内容とした。

研修名	開催月
食中毒・感染症予防委員会	<p>【2023 年 6 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガウンの着用に関して</li> <li>・ゾーニングに関して</li> <li>・食中毒予防に関して</li> </ul> <p>【2023 年 11 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症各論</li> <li>・感染予防のための行動</li> </ul> <p>【2024 年 3 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PPE の着脱に関して</li> <li>・各感染対応の確認</li> </ul>
虐待防止・身体拘束廃止委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止委員会</li> </ul> <p>【2023 年 6 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待 増加の背景</li> <li>・虐待の種類と要因</li> </ul> <p>【2023 年 11 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待防止法に関して</li> <li>・エンゼル福祉会の虐待防止指針</li> <li>・否定的な言葉を肯定的な言葉へ</li> <li>・アンガーマネジメント</li> <li>・虐待と疑われた事例</li> </ul>

2023 年度 社会福祉法人エンゼル福祉会  
おたけの郷事業報告書

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束廃止委員会</li> <li>【2022 年 6 月】</li> <li>・身体拘束がいけない理由</li> <li>・身体拘束を実施するうえでの要件</li> <li>【2023 年 11 月】</li> <li>・エンゼル福祉会の身体拘束に対する理念</li> <li>・入居者の安全と尊厳</li> <li>・スピーチロックが与える影響</li> </ul>
事故防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>【2023 年 7 月】</li> <li>・高齢者の事故</li> <li>・過失となる事故</li> <li>・事故予防対策について</li> <li>【2024 年 1 月】</li> <li>・誤薬について</li> <li>・介護事故の種類</li> <li>・事故の原因や最厚防止策のポイント</li> </ul>
褥瘡対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>【2023 年 8 月】</li> <li>・皮膚の構造に関して</li> <li>・褥瘡予防に関して</li> <li>・栄養状態を知るための BMI 価</li> <li>【2024 年 2 月】</li> <li>・褥瘡対策に関する指針</li> <li>・日常的な褥瘡予防</li> <li>・多職種連携による褥瘡予防</li> </ul>
食支援委員会研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>【2023 年 7 月】</li> <li>・誤嚥性肺炎予防</li> <li>・むせ込みの種類と初期対応</li> <li>・5 期モデルについて</li> <li>【2024 年 3 月】</li> <li>・高齢者の身体の特徴</li> <li>・安全な食事介助について</li> <li>・食の構造化</li> </ul>
看取り研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>【2023 年 4 月】</li> <li>・看取りの定義。</li> <li>・看取り介護とは。</li> <li>・エンゼル福祉会における看取り介護への</li> </ul>

	考え方。 【2024 年 3 月】 ・看取り介護の流れ ・看取り期の見当 ・看取り期の変化
--	---

## ② 中途職員研修

2023 年度に入職した職員はグループ合同による研修（グループの成り立ちから大切にしている考え方の共有を図るために）を実施。2023 年度は計 14 名の職員が受講した。入社後は法人内の OJT システムに則り現場における指導を実施。定期的に面談を実施しながら試用期間評価を迎えるようにし、新入職員が安心して働く事ができるよう OJT を行ってきた。

## II 外部研修

### ① グループ内選択研修

法人内で定めた書式（個別研修計画書）に則り、年間の受講計画を策定していった。昨年度は新型コロナウイルスの影響もあり、計画通りに研修を受講できなかった者も複数名いたが、2023 年度に関しては基本的に全ての職員が自ら定めた研修を受講する事ができた。

### ② グループ内 3 年目研修

新型コロナウイルスの影響により全ての回がWEB という形になったものの、計 13 名の職員が受講しチームで一つの事を成し遂げる事の重要性を学ぶ事ができた。

### ③ 合同管理者研修

グループ内全ての管理者が集い、管理者としての心構え等を学ぶ事ができる貴重な機会におたけの郷からは 6 名が参加する事ができた。

### ④ 認知症介護基礎研修

無資格者に対し 2024 年からは最低でも認知症介護基礎研修の受講が義務付けされていくといった事から、2023 年度中には全ての職員が認知症介護基礎研修（その他初任者研修等）を修了した。今後入職してくる職員（主に技能実習生）に関しても、グループ内のルールに則り、6 か月を経過後に認知症介護基礎研修を受講していただく予定。

### ⑤ ユニットリーダー研修

2023 年度は 1 名が受講した。

### Ⅲその他

#### ① 資格取得制度、就業促進事業の活用

- ・荒川区の「資格取得支援制度」により初任者研修 1 名、実務者研修 10 名が研修修了となった。
- ・東京都の「介護職員就業促進事業」を活用し、1 名が初任者研修を修了した。

#### ③ 人事考課制度

年 2 回の人事考課を実施。基本的には例年通り 3 名（当該者・評価者・決点者）で実施だが、新型コロナウイルスの状況により隔離フロア等に関しては 2 者（当該者と評価者のみ）での実施となる事もあった。本人のモチベーションアップは当然だが、年 2 回の賞与にも影響を及ぼす重要な制度のため、決点者と評価者において配点の根拠を共有し、当該者が正当な評価結果となるよう努めてきた。人事考課の場だからこそ言える悩み、その他意見等を収集しながら、評価者自身の「良い部分」「仕事としての成果」「成長の度合い」「今後取り組むべき事」を 3 者で話し合い共通認識とする事により、専門職としてだけではなく、組織人としての視野も広がっていている。

#### ④ OJT 教育システム

2022 年度の反省を活かし、2023 年度は改めて OJT を行う職員に対し仕組みの説明を年度当初に行った。主にフロア責任者、ユニットリーダーを中心に行い、これまで 1 か月目評価等には基本的にフロア責任者が同席していたが、23 年度はユニットリーダーにも参加をしてもらう形とした、これにより、新入職員の生の声を聞く事ができるだけでなく、ユニットリーダーが仕組みに触れる事により次世代の育成にも繋がっていったのではないかと感じている。

#### ⑤ その他 外部研修への参加

新型コロナウイルスが 5 類へと変更になった事から、これまで行えていなかった外部研修への参加も積極的に行った 1 年だった。

- ・ユニットリーダー研修…1 名
- ・認知症介護実践リーダー研修…2 名
- ・看取り期に望まれる実際のケア…2 名
- ・高齢者に多い疾患と薬の基礎知識…4 名
- ・モチベーション、マネジメントの実践 面接対話
- ・自衛消防スキルアップ訓練…4 名
- ・最期まで自分らしく生きる事を支援する…2 名
- ・アクティブ福祉への参加…2 名
- ・組織をよりよくするための環境作り…1 名

- ・クレーム対応研修 介護現場の実例から学ぶカスタマーハラスメントと苦情処理  
…5名
- ・福祉事業所が知っておきたコンプライアンス研修…3名
- ・働きやすい職場環境作り…1名
- ・やる気と活力を与えるコミュニケーションセミナー…8名
- ・ヒヤリハット事例を交えたリスク管理…1名
- ・ケアウィーク 24…6名

## (2) 雇用 (採用)

### I 採用状況報告

#### ① 応募・雇用状況

2023 年度は人材紹介を含めると 20 社を活用。うち無償型（ハローワークやホームページ等）を 5 媒体。その他は採用課金型とし無駄なコストがかからないようにした。応募件数、採用件数共に前年度より下回ったものの、特養とショートステイという事業形態のみ、立地、その他世の中の状況を踏まえると比較的順調に採用活動が進んだ 1 年であったと感じている。

#### ② 応募数・面接者数・採用者数

	2022 年度	2022 年度
応募数	87 名	97 名
面接者数	37 名	41 名
採用者数	25 名	28 名
採用率	67.5%	67.5%

#### ③ 外国人技能実習生

2023 年度は 4 名の技能実習生が入国～実勤務となった。グループとして N3 の試験合格は必須となるため、日本語の勉強は定期的に行ってきた。また、日本での生活で不安を感じる事がないよう、勤務開始後しばらくは定期的に自宅への訪問を行い日常生活における心配事などの聞き取りを実施。体調を崩した際は医療機関への付き添いなども行いながら、仕事だけではなく日常生活全般において支援を行ってきた。

II 事業所・職種別職員 常勤換算数（2024 年 3 月 31 日現在）

※常勤換算表記は①②③④⑤のみ

	正規職員	非正規職員	うち技能実 習生	うち特定 技能	派遣職員
①ユニット型特養	36.0 名	6.3 名	4.0 名	3.0 名	
②ユニット型短期	8.0 名	3.1 名	名	1.0 名	
③従来型特養	12.0 名	2.0 名	名	1.0 名	
④看護師	1.0 名	1.6 名			6.2 名
⑤介護支援専門員 (相談員兼)	2.0 名				
⑥管理栄養士	1 名				
⑦総務	2 名				
⑧居宅介護支援	3 名				
⑨機能訓練指導員	1 名				
⑩環境整備・運転		5 名			
⑪障がい者雇用		2 名			

III 新規卒業者

採用パンフレット及び求人票については、グループとして関東圏・東北圏の高等学校や専門学校に送付を行った。2023 年度中には 1 名の新規卒業者の採用が決定となり、2024 年 4 月より勤務を開始している。

IV 離職状況

2023 年度の退職理由は下記の通りである。

退職理由	特養	短期入所	他職種	計
身体的負担	3 名			3 名
業務内容への不 満・負担	1 名		1 名	3 名
体調不良	2 名			2 名
人間関係	3 名			3 名
高齢のため				
親族介護のため	1 名			1 名
通勤関係				
結婚・出産	1 名			1 名
その他	4 名	1 名		5 名

計	18 名	1 名	18 名
---	------	-----	------

2023 年度の離職率は 22.73%であった（2022 年度は 23.21%）

前年度と比較し僅かに減少したものの、依然として高い数値となっている。人員不足が顕著な業界であるからこそ、定着→育成の流れをしっかりと確立し、安定した運営を目指していく。

### （3）事業別目標評価

I 特別養護老人ホーム（従来型 40 床・ユニット型 100 床＝計 140 床）

#### ① 稼働率

・2023 年度稼働率目標…98%

※前年比

稼働実績	96.1%	-1.0%
入院総日数	1,252 日	-311 日
空室平均	20.2 日	+8.1 日

#### ② 入院者報告

単位：日

	肺疾患 誤嚥性 肺炎	骨折	泌尿器 疾患	脳疾患	心疾患	内臓疾患	その他 コロナ 含む
2022 年	262	76	31	175	28	81	579
2023 年	403	47	50	22	67	277	379
前年比	+141	-29	+19	-153	+39	+196	-200

#### ③ 退居理由

理由	ユニット型	多床室	計
看取り介護	14 名	9 名	23 名
病院（死亡）	13 名	7 名	20 名
他医療機関	4 名	1 名	5 名
在宅復帰	1 名	名	1 名
計	32 名	17 名	49 名

入院総日数は前年度比マイナスとなったものの、空床平均日数が+8.1 日となり、稼働率としては前年度比-1.0%となった。これは主に 2 階（40 床）の空床期間が長引いた事が要因となっている。

入院日数は前年度比-200 日となっており、新型コロナウイルスによる入院日数の現状が主な要因となる。2023 年度は誤嚥性肺炎による入院日数が+141 日となっており、食プロ養成講座を受講した職員を各フロアに配置しているものの、十分な成果を



得る事ができない形となった。

④ 入居判定委員会

荒川区高齢者福祉課より 3 か月に 1 回発行される入居申し込み表に基づき、1 か月に 1 度入居判定委員会を開催している。判定委員会には、施設長、施設介護支援専門員、相談員、管理栄養士、理学療法士、看護師らが参加し情報を共有している。

⑤ おたけの郷への申し込み 2024 年 4 月 1 日時点 ※ ( ) は 2023 年度数値

- ・ユニット型…109 名 (110 名)
- ・多床室…185 名 (185 名)

⑥ 入居者の状態 (2024 年 3 月 31 日現在)

平均年齢	平均介護度	最高齢者	最年少者
86.5 歳	3.5	100 歳	58 歳

## Ⅱ 短期入所生活介護

① 稼働率

	2022 年度	2023 年度	前年比
稼働目標 (平均)	70.0%	75.0%	
稼働実績	66.9%	76.1%	+9.2%
全体新規件数	101 件	131 件	+30 件
荒川区新規件数	87 件	114 件	+27 件
荒川区利用者数	4,143 件	4,851 件	+708 件

・稼働実績に関しては前年度比+9.2%とはなったものの、まだまだ従来のショートステイの役割を果たしているとは言えない状況にある。2023 年度は前年同様、毎月必ず広報誌を発行し、各居宅介護支援事業所に直接配布するという形をとった。ショートステイの取り組みを知っていただけるだけではなく、担当者の顔を覚えてもらう事をねらいとして行ったのだが、いくつかの居宅からは担当者を名指しで連絡してくる事もあり一定の効果は得られたのではないかと感じている。

・質の高いショートステイを目指すべく、単に外部への働きかけを行うだけではなく、内部にもしっかりと目を向けていく必要がある。より質の高いサービスを提供する事ができるよう努めていく必要がある事から、2023 年度はショートステイ開催のリーダー会議に施設長が必ず参加をし、現状の確認、今後の方向性などを一緒に話し合ってきた。新型コロナウイルス 5 類への変更にあたり、利用者様の生活の幅が広がるためにどのような取り組みをしていくべきかを模索した 1 年でもあった。2024 年度は、より利用者様に楽しんでいただけるよう、且つ安心してご利用していただけるよう努

めていきたい。

### Ⅲ 居宅介護支援事業所

・毎月のミーティング（施設長 介護支援専門員 3 名）を必ず実施し、進捗状況や現状の確認を行ってきた。また、3 名の介護支援専門員により、法令に基づいた内容でプラン作成等を行えているか等の相互チェック機能を取り入れた事により、法令に基づいた運営ができています。

- ・年間介護給付…1,176 件（月平均 91.0 件 前年度比+130 件）
- ・年間予防給付…305 件（月平均 24 件 前年度比-9 件）
- ・年間認定調査…0 件

2023 年度は認定調査の件数が 0 件となっている。新型コロナウイルスの影響により調査数が減少し、外部機関への委託がメインとなった事が要因となっているが、2024 年度からは認定の更新を迎える方々が非常に多くなり、調査数も新型コロナウイルス前同様程度になってくる事が想定される。

また、2024 年度は居宅介護支援事業所として予防の指定を受けていく予定であるため、要支援の方々が住み慣れた地域で介護サービスを利用しながら、より良い生活を営んでいただけるよう努めていきたい。

## （4）災害対策

### I 安否確認訓練

非常災害時の職員の安否確認として、セコム安否確認システムをグループ全体で運用。2024 年度からは BCP 運用が義務付けとなる事から、改めて全職員に対して安否確認システムの説明を行った。

また、新入職員に関しては入職時の書類を手渡しする際にセコムへの登録を実施するよう総務と仕組み作りを行い、全職員が災害時に迅速に対応できるよう訓練も含め日頃から災害への意識を高めていきたい。

### II 防災・避難訓練等

#### ① 第 1 回：2023 年 6 月 20 日～22 日

- ・昼間を想定した避難訓練 参加職員 50 名

#### ② 第 2 回：2023 年 11 月 12 日

- ・尾竹橋町会合同避難訓練 火災発生から公園までの避難訓練 参加職員 7 名  
町内の方々に実際に火災が発生した場合の避難誘導方法をお伝えし、建物から隣の

避難区域への避難という流れで実施。全体で約 200 名程度が参加するという非常に大規模な訓練であったが、災害時は多くの人手が必要となるため有意義な訓練であったと感じている。

③ 第 3 回：2024 年 3 月 4 日～6 日

- ・夜間想定 夜間の火災を想定した避難訓練 参加職員 11 名